

自分の実力に見合った 取り組みを！！

4月11日（火）の入学式が終了し、早速その日の午後の練習試合から1年生が出場しました。先発メンバーから出場した1年生もあり、また、そのチャンスにしっかり結果を残した1年生もいます。春の大会から戦力になる頼もしい1年生だと期待しています。

南商野球部は学年関係なくチャンスを与え、そこで結果を残した選手を公式戦で起用します。監督の私自身も高校時代、1年生から練習試合でチャンスを与えられ、そこで現状の自分の実力を自己理解できました。現状の自分の実力が対戦バッター・ピッチャー・チームに通用しているのかいないのか、チャンスを与えられ試合に出場してみないと正しい理解ができないものです。

本当は練習の中で自分の実力はうすうす理解しているのですが、人間は弱いもので、特に高校生は、なかなかその自分の現状を受け入れることができません。私も高校生の時にそうでした。ですが、練習試合でチャンスを与えられ

そこで結果を残せなかったら、もう逃げ場はありません。

現状の自分の実力を素直に受け入れるしかないのです。自分の実力の無さを理解できるからこそ、自分自身で練習をやる意欲、モチベーションは上がるはずです。正しい自己理解で練習の必要性を自分自身で感じるのです。やらされるのではなく自らやる練習。自分の立場と実力に見合った練習。

チームの中でクラスの中で、そして社会の中で自分の活躍する場所を自分で掴むということはそう言うことです。高校生がプレーする高校野球、少しずつでいいから大人から自立し、自分で自分を成長させる人間になってもらいたいと監督としては願っています。

2、3年生はうかうかしてられませんよ！！自分たちが1年生からチャンスを与えられたように、今の1年生もこれからどんどんチャンスを与えます。この1年間、この2年間の失敗や経験を活かし必死で頑張ってください。最後は勝負事です。自分で自分の力を磨くしかないのです。

練習試合を通して

僕が練習試合を通して感じた事は、先輩方よりパワーが無いことです。先輩方が速い打球や遠くに打球を飛ばす一方で、僕は外野の定位置に飛ばすのが精一杯でした。これからは、ご飯をたくさん食べて体重を増やしスイングスピードを上げ、先輩方のように速い打球や遠くに飛ばせるように頑張りたいです。他にも打ち取った打球をアウトにできなかったり、フライが取れなかったりと守備のミスが多かったので日頃の練習から努力を惜しまずに頑張らなければいけないと思いました。また、先輩方は大きな声が出ていたけれど、それに比べて自分は、まだまだ大きな声が出ると感じました。これぐらいでいいやとか、自分では出しているつもり、ではなく周りの人から認めてもらえるぐらい大きな声を出して取

り組んできたいです。札幌遠征の際に感じたことの他にも、野球以外の部分で感じたことは、とても多く、自分に足りないものを気づかせてくれた札幌遠征だったので、いい経験になりました。僕にとって高校野球で初めての公式戦となる春の大会も迫ってきています。チームにとって必要な存在になれるよう、春の大会までの残りの期間を意味のあるものにするために、これからの練習や練習試合を高い意識で取り組んでいきます。

帯広市立南町中学校出身 内野手 吉澤 佳祐

